令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>看護を学ぶにあたっての基礎となる看護の理念、看護の対象としての人間、看護の主要概念、歴史的な変遷を理解し、看護の全体像を把握する。あわせて初期の段階での自分なりの考えを整理する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 看護覚え書ー看護であること 看護でないことーフローレンス・ナイチンゲール 現代社</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護について			講義・演習
2	2	看護の専門性について (時代の流れとともに変わってきていること変わらないこと)			講義・演習
3	2	看護の歴史について (日本とアメリカの看護について)			講義・演習
4	2				
5	2	代表的な看護理論家から看護を考える			講義・演習
6	2	(フローレンス・ナイチンゲール, ヴァージニア・ヘンダーソン)			
7	2	代表的な看護理論家から看護について考える			講義・演習
8	2	(ペプロウ, オレム, カリスタ・ロイ, トラベルビー, ウィーデンバックなど)			
9	2	健康と健康障害について			講義・演習
11	2	看護における倫理と価値			講義・演習
12	2				
13	2	看護師の役割拡大について			講義・演習
14	2	チーム医療について			講義・演習
15	2	これからの看護の課題と展望			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 人間関係を成立・発展させるために必要な基礎的コミュニケーション技術を身につける。					
《成績評価の方法》 筆記試験・レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 I メディカ出版 看護コミュニケーション基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》 コミュニケーションに関する文献を集め、コミュニケーションについて学びを深めていく。					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	コミュニケーションの概念			講義・演習
2	2	看護学でコミュニケーションを学ぶ意義			講義・演習
3	2	コミュニケーションの基本原理・構造とプロセス・種類とその概要			講義・演習
4	2	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション			講義・演習
5	2				
6	2	看護の場面で効果的なコミュニケーション技術			講義・演習
7	2	1) 社会的コミュニケーション・専門的コミュニケーション			
8	2	2) コミュニケーションに必要な能力と態度・影響するもの			
9	2	3) 医療・看護におけるコミュニケーション			
10	2	4) 良好なコミュニケーションに必要な技法			
11	2	5) 積極的傾聴と共感			
12	2	実習で遭遇するコミュニケーション困難な状況への対応			講義・演習
13	2	・コミュニケーション障害・実習でみかける困難な状況			
14	2	アサーティブネスについて			講義・演習
15	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
複数の臨床で経験してきたフィジカルアセスメントの技術とその根拠について、その経験を活かした実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 フィジカルアセスメントの目的・意義を理解する。対象の身体状況をアセスメントするために必要なバイタルサインの測定技術・フィジカルイグザミネーションの技法を身につけ、対象者から得た身体情報から基礎的な正常異常の判断ができるよう学習を深める。					
《成績評価の方法》 筆記試験、技術テスト					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》 使用教材・参考図書に掲載されているAR動画等を視聴し、イメージをつける 人体の構造と機能の自己学習と学んだ技術の反復練習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	フィジカルアセスメントとは バイタルサインとは			講義
2	2	体温について 体温調節の技術			講義
3	2	バイタルサインの測定技術 呼吸・脈拍			講義
4	2	バイタルサインの測定技術 血圧			講義
5	2	バイタルサイン測定 (体温・呼吸・脈拍・血圧)			演習
6	2				
7	2	循環に関するフィジカルイグザミネーション 意識について			講義
8	2	呼吸に関するフィジカルイグザミネーション			講義
9	2	フィジカルアセスメントの技術 循環・呼吸			演習
10	2	排泄と体液に関するフィジカルイグザミネーション			講義
11	2	フィジカルアセスメントの技術 腹部・浮腫			演習
12	2	フィジカルアセスメントの活用と報告			講義
13	2	症状に合わせたフィジカルアセスメントの活用			講義・演習
14	2	バイタルサイン測定 アセスメントと報告			講義・演習
15	2	バイタルサイン測定の技術試験 まとめ			技術試験 講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (安全)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1 年前期
<p>担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>1. 看護における安全の意義および患者の安全と医療従事者の安全を守る技術を身につける。 2. 感染予防の意義を理解し、看護の対象者と看護者自身の安全を守るための原理・原則に基づいた感染予防の看護技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ：基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書に掲載してある AR 動画を視聴し、イメージをつける。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術 1) 医療安全の意義と確保 2) 患者の安全：主な医療事故とその予防策 3) 医療従事者の安全			講義
2	2				
3	2	1. 感染予防を推進する技術 1) 感染予防の意義 2) 感染症に関する法律 3) 感染症を成立させる要素と成立過程 4) 感染予防のための援助方法 5) 感染予防のための組織と役割 6) 医療廃棄物の取り扱い			講義
4	2				
5	2	1. 感染症を予防するための技術① 1) 手指衛生 2) 個人防護具の選択・着脱手順 3) 滅菌と消毒			講義・演習
6	2	1. 感染症を予防するための技術② 1) 無菌操作			
7	2	2) 滅菌物の取り扱い			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (環境)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年前期
<p>担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>人間にとっての環境の意味を理解し、対象が安全・安楽に闘病意欲を高め自立に向けた環境を整える援助技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、技術試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	環境の意義 環境を整える技術			講義
2	2	ベッドメイキングの基礎知識			講義・演習
3	2	2人で行うベッドメイキング			
4	2	病床環境と病床の整備 病床環境の調整援助のアセスメントの視点 事例による病床環境の情報収集とアセスメント			講義
5	2	臥床患者のシーツ交換			演習
6	2	事例による病床環境の情報収集とアセスメントを活かした			講義・演習
7	2	病床環境調整			
8	2	ベッドメイキング技術試験 まとめ			技術試験 講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年		単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒						
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。						
《科目目標》 人間にとっての活動及び休息・睡眠の意義とそのメカニズムについて理解し、基礎的な活動・休息・睡眠の援助技術を身につける。 人間にとっての清潔・衣生活の意義や清潔に関する生理学的メカニズムを理解し、基礎的な清潔の援助技術を身につける。						
《成績評価の方法》 筆記試験・技術試験						
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院						
《授業外における学習方法》 実習室を有効に活用し、看護技術の反復練習を行い技術習得する						
《履修に当たっての留意点》 特に演習については、教科書や視覚教材を使い事前学習して参加する						
回数	時間数	内 容				教授方法
1	2	休息と睡眠の意義・生理学的メカニズム 休息・睡眠のニーズに関するアセスメント 休息・睡眠を促す援助の実際				講義
2	2	活動・運動の意義・生理学的メカニズム 活動・運動のニーズのアセスメント				講義
3	2	安楽な体位 ボディメカニクス 活動・運動を支援する援助 安楽な体位の調整 体位変換				講義・演習
4	2	車いす・ストレッチャーでの移動・移送・歩行				演習
5	2	清潔・衣生活の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 清潔行為とその影響 清潔のセルフケアに影響を与える要因				演習
6	2	清潔の援助方法 寝衣交換				講義・演習
7	2	清潔の援助方法 全身清拭				講義・演習
8	2	清潔の援助方法 全身清拭				講義・演習
9	2	清潔の援助方法 臥床患者の全身清拭				演習
10	2	清潔の援助方法 臥床患者の全身清拭				演習
11	2	清潔の援助方法 手浴・足浴				講義・演習
12	2	清潔の援助方法 手浴・足浴				講義・演習
13	2	清潔の援助方法 洗髪				講義・演習
14	2	清潔の援助方法 洗髪				講義・演習
15	2	技術試験 「臥床患者の全身清拭」				技術試験

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅴ(食・排)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30/30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 1. 人間にとっての食事の意義や食事・栄養のメカニズムについて理解し、基礎的な食事の援助技術を身につける。 2. 人間にとっての排泄の意義や排泄のメカニズムについて理解し、基礎的な排泄の援助技術を身につける。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA とにかく使える検査値の見かた 第2版 照林社					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	食事・栄養の意義：食事に関する生理学的メカニズム			講義
2	2	食事・栄養に関する基礎知識 栄養状態のアセスメント			講義
3	2	食事・栄養に関する援助			講義
4	2	口腔ケア			講義
5	2	食事介助・口腔ケア			演習
6	2	非経口摂取の援助(経管栄養法・中心静脈栄養)			講義
7	2	排尿・排便の意義 排尿・排便の生理学的メカニズム			講義
8	2	排尿・排便の援助：床上での排尿・排便の援助			講義・演習
9	2	おむつを用いた援助			講義・演習
10	2	おむつ交換・陰部洗浄			
11	2	排尿・排便障害の種類①：排便行動、自然排便を阻害する因子			講義
12	2	排便障害時の援助①：温罨法・腹部マッサージ			演習
13	2	排便障害時の援助②：グリセリン浣腸			講義・演習
14	2	排尿・排便障害の種類②：排尿行動、自然排便を阻害する因子			講義
15	2	排尿障害時の援助：一時的導尿			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術VI	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 診療の補助技術に必要な人体の構造と機能を理解した上で、対象者が安全・安楽に検査・治療・処置を受けられるよう基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちを考え、配慮の必要性を学ぶ。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
《授業外における学習方法》 教科書に掲載してあるAR動画・DVDなどを視聴し、イメージをつける 人体の構造と機能の復習					
《履修に当たっての留意点》 身体侵襲を伴う技術内容となるため、演習が安全で効果的となるよう十分な事前学習を行い主体的な姿勢で臨みましょう					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	治療・処置時の患者の理解と看護者の役割			講義
2	2	呼吸を楽にする援助 1) 呼吸法 2) 痰を喀出させる方法(体位ドレナージ)			講義
3	2	3) 吸引 一時的吸引(口腔・鼻腔)の基礎知識 持続吸引の基礎知識			講義
4	2	4) 一時的吸引(口腔内)			演習
5	2				
6	2	5) 吸入(ネブライザー)療法			講義・演習
7	2	6) 酸素療法 酸素の取り扱い(中央配管・酸素ボンベ)			講義
8	2				
9	2	皮膚・創傷を管理するための基礎知識 1) 創傷の分類と治癒過程 創傷の管理			講義
10	2	2) 包帯法・三角巾			講義・演習
11	2	検査の意義 検査を受ける看護師の役割 検査の種類と実施時の注意点 検査の援助 身体計測 尿・便・喀痰検査			講義
12	2	腰椎穿刺・骨髄穿刺・胸水穿刺・腹水穿刺 血液検査 静脈血採血			講義
13	2	静脈血採血			講義
14	2	シミュレーターを使用した静脈血採血(真空採血管による採血)			演習
15	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅶ (注射)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に薬物療法・基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちに配慮した援助技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書に掲載してある AR 動画・DVDなどを視聴し、イメージをつける。 講義に関連する「人体の構造と機能」「基礎看護技術」の講義内容を振り返り理解する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>演習では、針などの医療物品を取り扱います。演習が安全で効果的な学習となるよう主体的な姿勢で臨み、また、演習時は身だしなみを整え忘れ物がないようにする。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	注射のための援助技術 ・注射法で使用する物品 注射の準備			講義
2	4	注射の実際① 皮内注射・皮下注射・筋肉内注射			講義・演習
3		目的・適応・必要物品・注射部位・方法・アンプルカット			
4	4	シミュレータを使用した皮下注射			演習
5					
6	4	注射の実際② 静脈内注射 点滴静脈内注射			演習
7		目的・適応・必要物品・注射部位・方法			
8	4	シミュレータを使用した点滴静脈内注射			講義
9					
10	2	持続点滴を挿入している患者の観察・寝衣交換			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅶ(与・輸)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に薬物療法・輸血・中心静脈挿入介助を行うための基礎的な知識を理解する。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
《授業外における学習方法》 教科書に掲載してあるAR動画・DVDなどを視聴し、イメージをつける。 講義に関連する「人体の構造と機能」「基礎看護技術」の講義内容を振り返り理解する。					
《履修に当たっての留意点》 各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 与薬とは 2. 薬物療法と看護 3. 与薬のための基礎知識			講義
2	2	1. 与薬のための援助技術 1) 安全で確実な与薬のための知識・技術・態度 2) 与薬法			講義
3	2	(1) 経口的与薬法 (2) 口腔内与薬法 (3) 直腸内与薬法 (4) 点眼・点入法 (5) 点鼻法 (6) 点耳法 (7) 吸入法			
4	2	(8) 塗布法 (9) 貼付法 (10) 注射法〔(皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射(末梢静脈内注射・中心静脈内注射))〕			
5	2	1. 輸血のための援助技術			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 効果的な看護活動をするため、看護倫理・看護の役割を基に問題解決技法である看護過程を展開する方法を学ぶ。また、看護過程を展開するための基礎的な知識として、アセスメント、問題の明確化(看護診断)、計画立案、実施、評価のそれぞれの方法と一連の流れを理解する。事例患者の看護過程を展開し、アセスメントから計画立案・記録の方法について学ぶ。					
《成績評価の方法》 課題の評価表 (ルーブリック) に基づき評価する。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護過程とは			講義・演習
2	2	看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 看護計画			講義・演習
3	2	4) 実施 5) 評価			
4	2	事例患者の看護過程展開			講義・演習
5	2	1) アセスメント			
6	2	2) 看護問題の明確化			
7	2	3) 看護計画			
8	2	4) 実施			
9	2	5) 評価			
10	2				
11	2				
12	2				
13	2				
14	2	看護過程展開に必要な能力 問題解決能力・クリティカルシンキング・リフレクション			講義・演習
15	2	倫理的配慮と価値判断 看護における記録・報告			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒</p> <p>看護師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し、講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>看護過程Ⅰでは、看護過程の一連の流れと方法について学習した。看護過程Ⅱでは、看護過程Ⅰの学習をもとに、疾患や治療が人間の生活に及ぼす影響を考えながら事例患者の看護過程を展開する。ゴードンの機能的健康パターンを用いて、アセスメントから看護問題の明確化を行い、看護計画立案・実施・評価の一連の思考過程を学習し看護過程の理解を深める。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>課題の評価表(ループリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 メディカ出版 看護がみえる Vol. 4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>既習(看護過程Ⅰ・疾病と治療・薬理学など)の授業資料を活用し課題に取り組むこと</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前学習(課題)に取り組む、授業に参加すること</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	1	事例患者の看護過程展開 疾患・治療が患者の生活に及ぼす影響			講義・演習
2	2	1) アセスメント			講義・演習
3	2	2) 看護問題の明確化			講義・演習
4	2	2) 看護問題の明確化			講義・演習
5	2	3) 看護計画			講義・演習
6	2	4) 実施			講義・演習
7	2	5) 評価			講義・演習
8	2	まとめ			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 ☒			
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<p>《科目目標》</p> <p>事例を用いたシミュレーション演習を実践し、患者の観察から必要な情報に「気づく」ことができ、その意味を理解し看護に活かすことができる。この過程を通して臨床判断能力の基礎を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>評価表(ルーブリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ：基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版 ナーシング・グラフィカ：基礎看護学③ 基礎看護技術 II メディカ出版 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>既習内容を理解し、また、必要な学習内容を主体的に考え学習する。 提示された事前課題を学習する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	臨床判断とは 1) 臨床判断モデル(気づき、解釈、反応、省察)			講義
2	2	臨床判断の実際① 1) 事例を用いたシミュレーション演習(日常生活援助)			講義・演習
3	2				
4	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 ☒			
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<p>《科目目標》</p> <p>事例を用いたシミュレーション演習を実践し、患者の観察から必要な情報に「気づく」ことができ、その意味を理解し看護に活かすことができる。この過程を通して臨床判断能力の基礎を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>評価表(ルーブリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ：基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版 ナーシング・グラフィカ：基礎看護学③ 基礎看護技術 II メディカ出版 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>既習内容を理解し、また、必要な学習内容を主体的に考え学習する。 提示された事前課題を学習する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	臨床判断の実際②			講義・演習
2	2	2) 事例を用いたシミュレーション演習(フィジカルアセスメント)			
3	2				
4	1				

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
成人看護の実務経験を活かし、成人期を理解するために必要な基礎的知識、成人教育を教授している					
《科目目標》 役割や責任を果たしながら自立して生活している成人期にある対象の特徴を理解し、その人の力を高めていく関わり方の基礎を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験・実技試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 文献学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	成人各期の特徴			講義
2	2	成人各期の健康問題 生活習慣に関連する健康障害			講義
3	2	健康レベル・経過別看護 成人への看護に有用な概念（病みの軌跡・セルフケア）			講義
4	2	成人への看護に有用な概念（ストレス）			講義
5	2	成人への看護に有用な概念（危機）			講義
6	2	成人への看護に有用な概念（自己効力） 健康教育演習のオリエンテーション			講義
7	2	成人の学習の特徴と看護			講義
8	2	看護における教育・指導技術			講義
9	2	情報収集（面接）			演習
10	2	情報収集（面接）			演習
11	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
12	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
13	2	指導の実施及び評価			演習
14	2	指導の実施及び評価			演習
15	2	指導後の対象の状況の確認と評価（面接）			演習

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
成人看護の実務経験を活かして、主な慢性疾患患者の特徴やアセスメントの視点、看護の方法に関する基礎知識を教授している。					
《科目目標》 慢性期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、セルフマネジメントできるよう自己の力を引き出す看護を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験・レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版					
《授業外における学習方法》 事前学習・復習を行う。					
《履修に当たっての留意点》 資料はあくまで補助的なものです。各自でノートを作成し、復習してください。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある人への看護の考え方 慢性期の概念・慢性疾患とその治療の特徴・慢性期看護の特徴			講義
2	2	慢性期にある人の特徴 慢性期にある人の心理・社会的特徴 病みの軌跡・疾病ライフサイクルの及ぼす影響			講義
3	2	慢性期にある人への特徴の看護援助 QOL・エンパワーメント・自己効力感			講義
4	2	COPD についての理解・酸素カニューラ体験について			講義
5	2	慢性の呼吸機能障害を持つ人の看護(COPD)			講義・演習
6	2				
7	2	体位ドレナージ			演習
8	2	糖尿病の理解			講義
9	2	血糖測定			演習
10	2	糖尿病を持つ人の看護			演習
11	2				
12	2	慢性腎臓病の理解			講義
13	2	慢性の内分泌環境調節障害を持つ人の看護(腎臓病)			講義
14	2	肝硬変の理解			講義
15	2	肝硬変を持つ人の看護			講義

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
看護師として実務経験のある教員が、リハビリ期の疾患や患者の特徴、アセスメントの視点、看護援助方法について教授している					
《科目目標》 リハビリテーションを必要とする人の、身体的・精神的・社会的特徴を理解し、セルフケアの再獲得ができるよう、自己の力を引き出す看護を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験・課題レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 6～14回は事例を用いた看護過程を行うため、事前学習を行って講義に臨むこと グループワークを行うため、積極的にワークに参加すること					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	リハビリテーション看護 時期・目的からみたリハビリテーション看護 リハビリテーション看護の対象と心理			講義
2	2	リハビリテーション看護の方法 障害者を支える制度 多職種連携のあり方			講義
3	2	運動器系の障害とリハビリテーション看護			講義
4	2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護			講義
5	2	呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション看護			講義
6	2	看護過程の展開：オリエンテーション、事例提示			講義
7	2	看護過程の展開：疾患理解			講義・演習
8	2	看護過程の展開：データベースアセスメント			講義・演習
9	2	看護過程の展開：全体像の理解			演習
10	2	看護過程の展開：看護計画①			講義・演習
11	2	看護過程の展開：看護計画②			講義・演習
12	2	看護過程の展開：援助計画立案			演習
13	2	看護過程の展開：看護の実際（ロールプレイ）			演習
14	2	実施記録と評価			
15	2	看護過程の展開：まとめ			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ がん看護・終末期看護を実践してきた経験をもつ教員が講義をおこなう					
《科目目標》 学習目的：看護師が看護実践するために必要ながん・終末期看護の知識について理解する 学習目標： <ul style="list-style-type: none"> ・がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者が安全安楽にその人らしい生活が送れるよう援助する方法を学ぶ ・終末期にある人の心身の変化を理解し、心身の苦痛を緩和する看護を学び死生観を養う 					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》 指定した自己学習は必ず取り組み、効果的に理解を深められるようにする					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	緩和ケア概論：緩和ケアとは何か、緩和ケアの現状、緩和ケアにおける看護師の役割を理解する			講義
2	2	がんの病態と診断、治療の特徴			講義
3	2	がん治療に対する看護：化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植			講義
4	2	身体症状とその治療・看護① 痛みの症状マネジメントの基本を理解する			講義
5	2	身体症状とその治療・看護② 痛み以外の症状マネジメントの基本を理解する			講義
6	2	精神症状とその治療・看護			講義・演習
7	2	身体・精神症状に対する看護ケア			演習
8	2				
9	2	緩和ケアのコミュニケーション			講義・演習
10	2	意思決定を支える看護			講義・演習
11	2	緩和ケアと生命倫理			講義・演習
12	2	非がん患者の緩和ケア			講義
13	2	地域・在宅緩和ケア			講義・演習
14	2	家族ケア			講義
15	2	臨死期のケア			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法IV	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助方法について教授する					
《科目目標》 疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護を学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 系統看護学講座：別巻 救急看護学 医学書院					
《授業外における学習方法》 文献学習					
《履修に当たっての留意点》 授業の中でグループワークを多く行います。積極的に意見交換をし、自分自身の意見を述べて学びを深めていってください。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	救急看護とクリティカルケアの特徴 救急医療体制と救急搬送システム 救急看護・クリティカルケアの場			講義
2	2	救急外来におけるトリアージ			講義・演習
3	2	ショックとその対応			講義
4	2	心停止とその対応			講義
5	2	対象と家族の心理状態とその関わり			講義
6	2	脳死と臓器移植			講義・演習
7	2	胸痛の看護①			講義・演習
8	2	胸痛の看護②			講義・演習
9	2	意識障害への対応①			講義・演習
10	2	意識障害への対応②			講義・演習
11	2	クモ膜下出血の看護			講義
12	2	急性呼吸不全の看護			講義
13	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性			講義
14	2	気管内吸引			演習
15	2	気管内吸引			演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅴ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 ☒			
外科病棟での実務経験を活かして、周手術期の生体反応や看護の方法について教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれらに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的能力を養う。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート、ピア評価</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1, 2, 3 医歯薬出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>演習前の技術練習は、必ず誰が行ってもできるようにして参加してください。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>疾病と治療Ⅴ(麻酔・生体反応、手術)で学習した内容を復習する。 この講義で学習することは、直接成人・老年看護学実習Ⅳにつながるものとなります。分からないことをそのままにしないようにして下さい。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	周手術期看護とは・周手術期の心理過程の特徴・術前検査			講義
2	2	手術室の環境・手術室における看護・麻酔・Moore 分類			講義
3	2	生体侵襲理論・循環器系・呼吸器系への影響と看護			講義・演習
4	2	消化器系・術後感染への影響と看護・ドレーン管理			
5	2	弾性ストッキング着脱(演習：教室で行います)			
6	2	麻酔や手術に影響を及ぼす事項・術後ベッド			講義
7	2	術後合併症の解釈と看護を考える			GW
8	2	事例における疾患の理解(胃がん・幽門側胃切除術)			講義
9	2	事例における関連図の作成・アセスメントと1日目の看護を考える			GW
10	2				
11	2				
12	2				
13	2	事例における1日目の看護を実践する(バイタルサイン測定・清拭/陰洗・離床)			演習
14	2				
15	2	術後日数に合わせた看護・クリニカルパス・退院後の生活を考える			講義

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	老年看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：老年看護の対象および高齢者を取り巻く環境を理解し、看護の役割を学ぶ 学習目標：1. 老年看護の対象を理解する 2. 高齢者を取り巻く社会の動きと現状を理解する 3. 加齢に伴う体の変化や疾病をめぐる変化の特徴を理解する 4. 高齢者疑似体験を通し、老化に伴う心理を推測する 5. 高齢者の尊厳と権利擁護の考え方を理解し、高齢者のもてる力を引き出す 老年看護の基本を理解する					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》 課題学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 高齢者の理解 1) 高齢者とは 2) 高齢者の特徴と理解			講義
2	2	1. 加齢に伴う変化			講義・演習
3	2	1) 身体機能の生理的变化			
4	2	2) 心理・精神機能の変化			
5	2	3) 社会的機能の変化			
6	2	2. 高齢者疑似体験			
6	2	3. 高齢者に起こりやすい疾患の特徴			
7	2	1. 高齢者をとりまく社会			講義
8	2	1) 高齢者の生活と家族			
9	2	2) 高齢者が生活する場			
10	2	3) 高齢者を支える制度 (1) 高齢者の医療の確保に関する法律に基づく制度 (2) 介護保険制度 (3) 成年後見制度			
11	2	1. 高齢者看護における倫理			講義・演習
12	2	1) 高齢者虐待 2) 身体拘束			
13	2	1. 高齢者看護の特性			講義
14	2	2. 高齢者看護に関わる諸理論			
15	2	1. 高齢者にとっての健康 2. 高齢者とQOL			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：高齢者に起こりやすい問題を知り、予防という視点から看護の役割を考える 学習目標：1. 地域高齢者を支えている医療・福祉職とその役割を理解する 2. 介護が必要な高齢者を支える施設および通所施設を理解する 3. 高齢者に起こりやすい問題を知り、健康増進を支える取り組みを理解する 4. 健康を保ちながら生活する高齢者を知り、地域全体で健康増進を支える取り組みを理解する					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 課題学習					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	多様な生活の場における看護			講義
2	2	高齢者のヘルスプロモーション①			講義・演習
3	2	1) 高齢者の健康増進 2) 生活習慣病予防 3) 転倒予防			
4	2	4) 認知症予防 5) 社会参加			
5	2	高齢者のヘルスプロモーション②			
6	2	1) 地域で役割を持ち、活躍する高齢者を知る 2) 高齢者の健康を地域全体で支える取り組みを知る * 瀬戸市高齢者福祉課の専門職の方の講話 * 瀬戸地域福祉を考える会「まごころ」の方の講話			講義・演習
7	2	高齢者看護におけるチームアプローチ			講義・演習
8	1	高齢者のリスクマネジメント			

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 学習目的：慢性疾患や健康障害を持つ高齢者が、疾患や障害をもちながらもその人らしく生活を営むことができるように持てる力に着眼し、安心していきいきと暮らせるよう、安全面にも配慮した看護を提供するための知識・技術を修得する。 学習目標：1. 高齢者の6つの生活行動に焦点をあて、対象を捉える方法を理解する。 2. 栄養状態を改善、維持する方法の1つである経鼻経管栄養を、安全に行うための、知識・技術を修得する。 3. 排泄障害を来しやすい高齢者の排泄ケアを適切に行うための、知識・技術を修得する。 4. 事例から高齢者の生活を整える看護を考えることができる。					
《成績評価の方法》 筆記試験・課題レポート・ポストテスト					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 メディカ出版 看護がみえる vol,2 臨床看護技術 メディックメディア					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	老年看護の展開における考え方			講義
2	2	生活行動情報の着眼点(活動・休息)			講義
3	2	生活行動情報の着眼点(身じたく)			講義
4	2	生活行動情報の着眼点(コミュニケーション)			講義
5	2	生活行動情報の着眼点(食事)			講義
6	2	栄養管理：経鼻経管栄養カテーテルの挿入と管理			講義
7	2	経鼻経管栄養			演習
8	2	経鼻経管栄養			演習
9	2	摂食嚥下障害看護 *外部講師			講義・演習
10	2	生活行動情報の着眼点(排泄)			講義
11	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(摘便)1)			講義
12	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(摘便)2)			演習
13	2	生活行動に焦点をあてた看護(事例検討)			講義
14	2	生活行動に焦点をあてた看護(事例検討)			講義
15	2	生活行動に焦点をあてた看護(発表)			演習

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	老年看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1(30)	開講時期	2年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
《科目目標》 学習目的：治療を必要とする高齢者の看護について理解を深め、その人らしい生活を支える看護を実践するための知識や視点、ケアの方法を理解する。 学習目標： 1. 各病期の治療を受ける高齢者の看護が理解できる。 2. 認知症をもつ高齢者の看護が理解できる。 3. 病態と生活機能に着目した、看護過程の展開ができる。					
《成績評価の方法》 筆記試験・課題レポート・ポストテスト					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う。					
《履修に当たっての留意点》 課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	治療を受ける高齢者の看護1（薬物療法）			講義
2	2	治療を受ける高齢者の看護2（急性期：手術療法）			講義
3	2	治療を受ける高齢者の看護3（慢性期：パーキンソン病）			講義
4	2	認知症・うつ病・せん妄の看護			講義
5	2	認知症看護1（病態・症状の理解・治療）			講義
6	2	認知症看護2（ユマニチュード・リラクゼーション）			講義
7	2	認知症看護3（ADLの低下が起こらないようなケア・環境の工夫を考える）			講義
8	2	認知症看護4：治療・介護を必要とする高齢者の家族看護			講義
9	2	高齢者の終末期：終末期看護、意思決定支援			講義
10	2	老年看護過程：大腿骨頸部骨折の患者 事例展開			講義
11	2	老年看護過程：情報の分析①			講義
12	2	老年看護過程：情報の分析②			講義
13	2	老年看護過程：生活機能関連図			講義
14	2	老年看護過程：看護の焦点			講義
15	2	老年看護過程：看護の焦点（発表）			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 小児病棟で実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 小児各期の成長発達の特徴を理解し、小児の健全な成長発達を促すための援助を学ぶ。また、子どもの最善の利益とは何かを考える。					
《成績評価の方法》 課題・筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 公衆衛生がみえる メディックメディア					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 積極的にGWに参加できるよう、準備して授業に参加する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	小児看護の対象と区分・小児の成長発達の原則と影響因子 身体発育および発達の評価			講義
2	2				
3	2				
4	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：新生児			講義
5	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：乳児			GW
6	2				講義
7	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：幼児			GW
8	2				講義
9	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：学童期・思春期			GW
10	2	子どもの栄養			講義
11	2	調乳			演習
12	2	小児看護の変遷・子どもと家族を取り巻く法律と施策			講義
13	2	子どもの権利・子どもの最善の利益			講義
14	2	事例を用いて成長発達を促すかわり考える			GW
15	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
≪科目目標≫ 小児期に起こりやすい代表的な疾患の病態・治療・検査について理解する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材 (教科書) 及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	新生児疾患、遺伝性疾患、染色体異常			講義
2	2	代謝・内分泌疾患			講義
3	2	免疫・アレルギー・膠原病疾患			講義
4	2	呼吸器・循環器疾患			講義
5	2	腎・泌尿器疾患、消化器疾患			講義
6	2	血液・腫瘍疾患			講義
7	2	神経・筋・精神疾患			講義
8	1	感染症・外科疾患・事故、虐待			講義

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒</p> <p>小児科病棟勤務経験があり、その経験から得た知識や患児、家族との関わりなどを講義にいかしている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>小児の健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、小児看護を行うための基礎的知識を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>小児看護概論で学んだ、子どもの成長発達を想起しながら子供の看護を考える</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある子どもと家族への看護			講義
2	2	急性期にある子どもと家族への看護（発熱）			講義
3	2	急性期にある子どもと家族への看護（下痢・嘔吐・脱水）			講義
4	2	急性期にある子どもと家族への看護（けいれん）			講義
5	2	急性期にある子どもと家族への看護（呼吸困難）			講義
6	2	周手術期にある子どもと家族への看護			講義
7	2	障害をもつ子どもと家族への看護 被虐待児と家族への看護			講義
8	2	在宅における子どもと家族への看護 災害を受けた子どもと家族への看護			講義
9	2	救急救命処置を受ける子どもと家族への看護			講義
10	2	検査や処置を受ける子どもと家族への看護			講義
11	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			講義
12	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			GW
13	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			発表
14	2	終末期にある子どもと家族への看護			講義
15	2	終末期にある子どもと家族への看護の実際			講義

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
小児病棟で実務経験のある教員がその経験を生かし、実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 小児の特徴的な健康障害を取り上げ、子どもの基本的特性に応じた症状のアセスメントや必要な看護が理解できる。					
《成績評価の方法》 筆記試験・課題					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 積極的にGWに参加できるように、準備して授業に参加する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ハイリスク新生児と家族への看護			講義
2	2				
3	2	外来における子どもと家族への看護			講義
4	2	健康障害をもつ子ども・家族へのアセスメント 事例①急性胃腸炎			GW
5	2	事例②川崎病			GW
6	2				
7	2				
8	2	事例③気管支喘息			GW
9	2				
10	2				
11	2	事例④ネフローゼ症候群			GW
12	2				
13	2	子どもの安全を守るために必要な看護（KYT）			講義・GW
14	2				
15	2	新生児人形を用いて身体計測 モデル人形を用いて心拍数・呼吸数測定 保育器の取り扱い			演習

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	母性看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かした講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：母性についてその特徴を捉え、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス／ライツの視点から、社会における母性看護の現状とその役割、今後の課題を理解する。 学習目標：1. 母性看護の基盤となる概念を理解する。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。 3. 母性看護の役割、法的責任と倫理について理解する。 4. 女性のライフステージ各期の健康問題と看護について理解する。					
《成績評価の方法》 筆記試験、レポート					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 公衆衛生がみえる メディックメディア					
《授業外における学習方法》 課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	母性看護の中心概念①			講義
2	2	母性看護の中心概念②			講義
3	2	母性看護実践を支える概念			講義
4	2	リプロダクティブヘルス／ライツ			講義
5	2	セクシュアリティ			講義
6	2	リプロダクティブヘルスに関する統計			講義
7	2	リプロダクティブヘルスに関する法と制度①			講義
8	2	リプロダクティブヘルスに関する法と制度②			講義
9	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（思春期）①			講義
10	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（思春期）②			講義
11	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（成熟期）			講義
12	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（更年期・老年期）			講義
13	2	リプロダクティブヘルス／ライツに関する課題①			講義
14	2	リプロダクティブヘルス／ライツに関する課題②			講義
15	2	リプロダクティブヘルス／ライツに関する課題③			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：妊娠の正常な経過ならびに正常を逸脱した妊娠の経過とその援助方法を学ぶ 分娩の正常な経過ならびに正常を逸脱した分娩の経過とその援助方法を学ぶ 学習目標：1. 正常な妊娠経過とその援助方法を理解する 2. 正常を逸脱した妊娠とその援助方法を理解する 3. 正常な分娩経過とその援助方法を理解する 4. 正常を逸脱した分娩とその援助方法を理解する 5. ウェルネス志向での看護過程を理解する					
《成績評価の方法》 筆記試験、レポート					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 ①ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ②ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版 ③ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 事前学習・妊娠期の事例のアセスメントを実施する					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	妊娠・出産の現状とサポート、妊娠の定義・成立			講義
2	2	妊娠による妊婦・家族への影響、妊婦健診			講義
3	2	妊婦体験、妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助①			講義・演習
4	2	妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助②			講義
5	2	妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助③			講義
6	2	妊娠期の看護過程① (事例のアセスメント)			講義
7	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法①			講義
8	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法②			講義
9	2	正常な分娩① (分娩の定義、分娩の3要素、分娩経過)			講義
10	2	正常な分娩② (分娩による母体・胎児への影響、心理的变化)			講義
11	2	正常な分娩③ (家族の心理的变化)、分娩期の援助①			講義
12	2	分娩期の援助②			講義
13	2	妊娠期の看護過程② (看護を考える)			演習
14	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法①			講義
15	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法②			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒					
産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：正常な産褥および正常を逸脱した産褥への援助方法を理解する。 正常な新生児および正常を逸脱した新生児への援助方法を理解する。 学習目標：1. 正常な産褥経過とその援助方法を理解する。 2. 正常を逸脱した産褥とその援助方法を理解する。 3. 新生児の特徴と生理的変化およびその援助方法を理解する。 4. 正常を逸脱した新生児とその援助方法を理解する。 5. ウェルネス志向での母性看護過程について理解する。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 事例のアセスメントについては、必ず事前課題に取り組んで講義に臨むこと。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	出生直後の胎外生活適応過程と看護			講義
2	2	胎外生活適応過程を促進するための看護			講義
3	2	正常を逸脱した新生児の看護			講義
4	2	出生直後の新生児のアセスメント			講義
5	2	正常な新生児のアセスメント			講義
6	2	全身の回復過程とその援助方法			講義
7	2	生殖器の復古とその援助方法			講義
8	2	母乳分泌のメカニズムと母乳育児支援			講義
9	2	親役割獲得過程とその援助方法			講義
10	2	全身の回復と生殖器の復古のアセスメント			講義
11	2	母乳育児のアセスメント			講義
12	2	親役割獲得過程のアセスメント			講義
13	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント①			講義
14	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント②			講義
15	2	正常を逸脱した褥婦への看護			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒</p> <p>産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的： 1. 産褥・新生児期にある母子とその家族への看護を理解する。 2. 母性看護で必要な看護技術を修得する。</p> <p>学習目標： 1. 母子相互作用に着目し、ウェルネス志向での母子に対する看護を理解する。 2. 妊婦、褥婦に必要な看護技術を理解する。 3. 新生児への援助に必要な看護技術を修得する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、レポート、実技試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習、課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事例を用いた看護過程は母性看護の方法Ⅱで用いた事例を使用するため、復習を行って講義に臨むこと。</p> <p>看護技術は母性看護の方法Ⅰ・Ⅱで学習しているため、復習を行って演習に臨むこと。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	産褥・新生児期にある母子とその家族の看護の特徴 (母子を一組の対象者として捉える、母子相互作用)			講義・演習
2	2	沐浴・寝衣交換・オムツ交換 妊婦への援助技術 (腹囲・子宮底測定、浮腫の観察、レオポルド触診法)			
3	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出①			講義・演習
4	2	褥婦への援助技術(子宮復古の観察、産褥体操、授乳)			演習
5	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出②			演習
6	2	沐浴			技術試験
7	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出③			講義
8	1				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護学概論 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：精神看護の基本となる人間理解を目的として、人格の発達過程、人の心理・行動特性を理解し、健康な生き方とは何かについて考える。 学習目標：心の健康とは何かを理解し、心の発達過程について説明できる。心の健康に影響を及ぼす要因と対処法について説明できる。現代家族の特徴、核家族の機能と役割について説明できる。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メデイカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版					
《授業外における学習方法》 DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけながら講義に臨めるようにする					
《履修に当たっての留意点》 講義で伝えた内容を学生が理解できているか、確認しながら進める 精神科看護とは何かを考え、自分の言葉で人に伝えられるよう、GWなどを取り入れる					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 精神障害についての基本的な考え方			講義
2	2				講義・演習
3	2	2. 人間のこころと行動			講義
4	2	3. 人格の発達と情緒体験			講義・演習
5	2	4. 人生各期の発達課題 ライフサイクルとメンタルヘルス 胎児期から老年期			講義
6	2				講義
7	2				講義・演習
8	2				講義・演習
9	2	5. 現代社会とこころ 1) 現代社会の特徴 2) 現代社会とこころの問題 3) 現代社会における家族関係			講義
10	2				講義・演習
11	2	6. ストレスに対する身体的反応—心身症 事例から関りを考える			講義
12	2				講義・演習
13	2	7. 家族とその支援 事例から関りを考える			講義
14	2				講義・演習
15	2	8. 精神保健医療福祉をめぐる法律			講義

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	精神看護学概論Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 病院勤務経験のある教員が担当している。					
《科目目標》 学習目的：精神看護の対象を理解し、患者－看護師関係について学ぶ。また、現代社会の中で起きてくる心の健康問題および精神保健制度について理解する。 学習目標：1. 精神看護における患者－看護師関係について理解する。 2. 社会環境の変化と心の健康問題について理解する。 3. 精神医療・看護の歴史的変遷について理解する。 4. 今日の精神保健制度と今後の課題について理解する。					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社 はじめての精神科看護 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 グループワーク					
《履修に当たっての留意点》 対象の生きにくさを対象の立場に立った視点で考えていくことの大切さを知ってほしい。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	精神障害について：現代社会とこころの問題から考える			講義
2	2	患者 - 看護師関係			演習
3	2	信頼関係を築くためのコミュニケーション技術			講義
4	2	精神科看護におけるコミュニケーションの実際			講義
5	2	かかわりで生じる感情			講義
6	2	関係をアセスメントする：プロセスレコード			講義
7	2	プロセスレコードの展開			講義
8	2	プロセスレコードの演習			演習
9	2	看護師のストレスマネジメント			講義
10	2	精神医療・看護の歴史的変遷			講義
11	2	精神保健医療福祉に関わる法制度と今日の課題			講義
12	2	精神保健福祉法の理解			講義
13	2	地域生活を支える社会資源の活用：障害者総合支援法			講義
14	2	社会資源の活用を考える			演習
15	2	精神障害者のリカバリーを支援する取り組みと今後の課題			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法Ⅰ (疾患)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (8/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>精神が障害された人を理解するための基礎的知識として、障害の分類と精神障害の病態・検査・治療について学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	統合失調症			講義
2	2	気分障害 (うつ病、双極性障害)			講義
3	2	認知症、せん妄、てんかん、依存			講義
4	2	パーソナリティー障害、摂食障害、発達障害、PTSD			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法Ⅰ (看護)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (22/30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
《科目目標》 学習目的：精神科の看護領域で見られる精神病状態像にある人への看護について理解する 学習目標：1. 精神が障害された人を理解するための基礎知識を身に付ける 2. 精神障害を持つ人への身体ケアについて学ぶ					
《成績評価の方法》 筆記試験					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 パーフェクト臨床実習ガイド精神看護 照林社 はじめての精神科看護 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 DVDを各自視聴するなどし、イメージをつけて講義に臨むことができる					
《履修に当たっての留意点》 対象について何故そう考えるのかと学生が考え、考えを共有できるように、グループワークや発表の機会を作る					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 精神科での治療と看護			講義
2	2	1) 薬物療法 2) 精神療法 3) リハビリテーション			講義
3	2	2. 精神科看護におけるケアの方法			講義
4	2				講義
5	2	3. 入院環境と治療的アプローチ			講義
6	2	4. 精神科看護におけるリスクマネジメント			講義
7	2	5. ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割			講義
8	2	6. 精神科看護の領域でみられる状態と看護 1) 抑うつ障害と双極性障害 2) 統合失調症 3) 不安障害・迫性障害 4) 依存・パーソナリティ障害			講義
9	2				講義・GW
10	2				講義・GW
11	2				講義・発表

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 病院勤務経験のある教員が担当している。					
≪科目目標≫ 学習目的：セルフケア理論を用いて精神障害者の生活する力をアセスメントし、看護を過程する方法を学ぶ。 学習目標：セルフケア理論を理解し、事例を通して紙面上での看護を展開する。					
≪成績評価の方法≫ グループワークによるレポート・筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社 はじめての精神科看護, メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ グループワーク					
≪履修に当たっての留意点≫ 実習の実際の記録を使用して紙上事例を展開していきながら患者とのかかわりがイメージできるといい。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. セルフケア理論－オレム・アンダーウッド理論			講義
2	2	2. 患者－看護師関係の理論			講義
3	2	3. セルフケア理論を用いた看護過程の展開方法			講義
4	2	4. 統合失調症の事例を用いた看護の展開 1) 情報収集 (基本的条件づけの要因)			講義・演習
5	2	2) 精神状態の査定			講義・演習
6	2	3) アセスメント (普遍的セルフケア要件)			講義・演習
7	2	4) 看護の方向性から看護計画立案と全体像の把握			講義・演習
8	1	5. 患者とのコミュニケーションのポイント：DVD より			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合 I (医療安全)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	3 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 医療事故が起こる過程とそれを防止する対策を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	医療安全と看護の理念			講義
2	2	医療安全への取り組みと医療の質の評価			講義
3	2	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント			講義
4	2	看護業務に関連する事故と安全対策①			講義
5	2	看護業務に関連する事項を安全対策②			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合 I (看護管理・看護倫理)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位 (時間)	1 (20/30)	開講時期	3 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 学習目標 1. 医療を取り巻く社会環境の変化と、そこにおける看護の位置づけを学ぶと共に、チーム医療及び多職種との協働の中でメンバーシップ、リーダーシップを理解する。 2. 看護における倫理の必要性について学ぶ。 3. 看護倫理に関する基本的知識を理解する。 4. 事例分析を通して、適切で倫理的な意思決定と行動について学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・レポート					
≪使用教材 (教科書) 及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護管理① 社会の変化と看護師の役割、協働、リーダーシップ			講義
2	2	看護管理② 看護マネジメント			講義
3	2	看護管理③ 組織で取り組む看護活動 看護の質向上のための取り組み、看護と経営			講義
4	2	看護管理④ 業務マネジメント、セルフマネジメント			講義
5	2	看護管理⑤ 看護専門職とキャリア 看護現場に影響を与える制度と法律			講義
6	2	授業ガイダンス			講義・演習
7	2	患者権利宣言、倫理とは、倫理的行動とは、看護職の倫理綱領			
8	2	看護倫理の実践とは			講義・演習
9	2	事例分析①、②、③			
10	2	まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合Ⅱ (国際・災害看護)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 1. 国際的にどのような健康問題が課題になっているかを理解し、国際看護の基本理念を理解し、その方法を考える。 2. 災害が生活に及ぼす影響を理解し、災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・レポート					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践④ 国際化と看護 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫ 日頃起こっている災害から思うことや自身の考えを持ちながら授業に臨んでほしい					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	災害看護学の定義・災害の種類と健康被害・災害と倫理			講義
2	1	災害医療に関する国の政策・災害医療に関する法律			講義
3	2	災害医療活動の特徴			講義・演習
4	2	配慮を必要とする人への看護			講義・演習
5	2	被災者と支援者の心理の理解と援助			講義・演習
6	2	防災・減災マネジメント			講義・演習
7	2	国際看護学の定義・グローバルヘルス			講義
8	2	国際協力のしくみ・開発協力と看護の実際			講義・演習

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	看護研究演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	3 年全期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護研究実績の経験をもとに、看護研究の意義から研究の発表までを教授している。					
《科目目標》 実践した看護の中から課題を見出し、ケーススタディとしてまとめる。この過程を通して、文献の活用、倫理的配慮、科学的・論理的なものの見方や考え方を学び、自己の看護観を深め、研究の基礎能力を身につける。					
《成績評価の方法》 論文・発表に対する看護研究演習評価表（ルーブリック）に基づいて評価する					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 はじめて学ぶケーススタディ 総合医学社 ナーシンググラフィカ 基礎看護学④ 看護研究					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 看護研究の意義と目的 2. 研究の種類及び方法			講義
2	2	3. 看護研究のプロセス 4. 研究計画書の作成 5. 文献検索について			講義・演習
3	2	ケース論文のまとめ方			講義
4	2	ビジョン・ゴールシートの作成、ケース計画書の作成			演習
5	2	6. 研究の実際 1) ケーススタディの完成 2) 抄録の作成 3) スライドによる発表準備			講義・演習
6	2	4) ケーススタディの発表・講評			演習
7	2				
8	2				
9	2				
10	2				
11	2				
12	2				
13	2				
14	2				
15	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	総合演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し講義を行っている					
《科目目標》 看護を統合的にとらえ、臨床判断能力、自己学習力を培い、自らの課題を明らかにする。シミュレーションの経験を通して、学習者が振り返り、検証することによって専門的な知識・技術・態度の統合を図る。学習者同士の情報の共有・協力・調整する力を身につける。					
《成績評価の方法》 課題の評価表（ルーブリック）に基づき評価する					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 動画による事例					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》 事前学習を十分に行って授業に臨む					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	オリエンテーション 事例1：高血圧症患者の意識障害 ・場面①からの気づき			講義 演習
2	2	・場面①から必要な観察と対処 ・場面②の看護師の行動を意味づける			演習
3	2	・場面②から疑われる病態、検査・治療を予測する			演習
4	2	・場面③から疾患・検査・治療を理解する			演習
5	2	事例2：COPD患者の呼吸困難 ・場面①②からの気づき			演習
6	2	・場面①②から必要な観察と対処 ・病態を理解し、看護師の行動を意味づける ・場面③から病態理解と検査・治療を予測する			演習
7	2	・場面④から治療を理解する			演習
8	2	事例3：胃切除術後1日目 ・対象の状況を予期する ・術後1日目の行動計画を組み立てる			演習
9	2	・訪室前・訪室時にどのような情報を得るか			演習
10	2	・シミュレーション1回目			演習
11	2	・シミュレーションの振り返り（気づき・解釈・反応・省察）①			
12	2	・シミュレーションの振り返り（気づき・解釈・反応・省察）②			演習
13	2	・シミュレーション2回目 ・シミュレーションの振り返り（気づき・解釈・反応・省察）			演習
14	2	・術後1日目の行動計画修正①			
15	2	・術後1日目の行動計画修正② まとめ			演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師としての実務経験と看護教員としての経験を活かし、看護職の役割と機能について教授している。					
《科目目標》 実習目的：講義で学んだ看護の機能や基礎看護技術の知識・技術やその考え方を基に、病院における看護師の役割を理解する。また患者の療養生活環境を知り、患者とのコミュニケーションや援助を通して、看護師として大切にしたいことを考える。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習					
《履修に当たっての留意点》 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間	1 学年 9 月～10 月				
時間数	合計 45 時間				
実習内容	1. 病院における看護師の役割を考える 2. コミュニケーション技術を意識して、患者と関わる 3. 患者の状態に合わせた援助がどのように実施されているか学び、患者の思いを考え援助する 4. 看護について考えたことをまとめる 5. 看護者として望ましい態度は何かを考え、行動する				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護師として看護業務に携わった教員が教授している。					
《科目目標》 基礎看護学の講義で学んだ知識・技術・態度を活かし、マージョリー・ゴードンの機能的健康パターンの考えに基づき、患者の全体像を捉える。入院という特殊な生活環境下の患者にとって、必要な日常生活援助を提供する。実施した援助の中で得た気づきや患者に与える影響を振り返ることで、「よりよい看護」を目指す。臨地実習を通じた学びから、患者の個別性や自己の看護を考える機会とする。さらに、信頼される専門職として、主体的に学ぶ姿勢や望ましい態度を身につける。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 人体の構造と機能・疾病と治療・薬理学・基礎看護技術などの講義で使用した教科書 参考書・資料					
《授業外における学習方法》 実習に関連する講義の内容を振り返り、理解する。 基礎看護技術の講義で既習している看護技術は、積極的に練習する。					
《履修に当たっての留意点》 実習オリエンテーションの内容について理解し、主体的に実習に臨む。 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につけられる機会となるため、実習に参加できるよう健康管理に留意し臨む。					
実習プログラム					
実習期間	1 学年 1 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 患者を身体的・精神的・社会的な側面から捉え、健康上の問題を導き出す。 2. 患者の状態に応じた看護計画を立案できる。 3. 患者の健康状態を観察し、患者に必要な援助を実施する。 4. 看護実践の成果を評価し、看護計画の修正ができる。 5. 看護の考えや気づきを述べる。 6. 看護学生として、信頼されるよう望ましい姿勢で行動する。				